喜入のリュウキュウコウガイ産地

【所　在　地】鹿児島市喜入町生見字貝和田 276 －１，上荒田 1284 －乙ロ
【種　　別】国指定特別天然記念物
【指定年月日】昭和 27 年３月 29 日（国指定天然記念物　大正 10 年３月３日）

熱帯及び亜熱帯の泥土の堆積する波のおだやかな入り江や河口の淡水と海水のまじりあう汽水域に，マングローブとよばれる低木林が発達する。メヒルギはマングローブを構成するヒルギ科の一種で，その果実が琉球のこうがい（かんざし）に似ていることから，リュウキュウコウガイとも呼ばれている。８月頃白い花が咲き，果実は翌年６月に熟す。果実は細長く，枝についたまま発芽する（胎生）。落下すると泥土に刺さって実生となり，やがて生長して一本立ちの木となる。南方のメヒルギは４～５ m 程度にまで生長するが，喜入のものは２ m 位のものが多い。

メヒルギの分布は，熱帯アジアから琉球，種子島，屋久島，九州南部までで，喜入のリュウキュウコウガイは北限とされている。この群落は慶長 14（1609）年，島津氏の琉球出兵に従軍した喜入の領主肝付氏が持ち帰り移植したとする説と，黒潮にのって漂着し繁殖したとする説があり，詳細は不明であるが，自生の北限地として保護されている。

メヒルギの仲間は世界に 17 属 60 種ほどあるが，奄美大島以南にはメヒルギの他にオヒルギを産し，沖縄以南にはヤエヤマヒルギ（オオバヒルギ）やマヤプシキなどが自生している。